

| | | |
|----------|----|---------------------|
| 通し番号 | 68 | ←通し番号を打つと下記に表示されます。 |
| 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|--|----|------|-----------|-----|
| 情報ビジネス科 | 2,3 年 | 商業 | 原価計算 | 選択 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> | | | | |
| 教材 | 原価計算（実教出版） | | | | |
| 留意点 | | | | 開講予定人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。 |
| 思考・判断・表現 | 原価計算をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなう課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 適切な原価管理をおこなう力の向上を目指してみずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に関与し責任をもって取り組む態度が身についている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|---------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト、学習観察 |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト、レポート、学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査・小テスト、レポート、学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| <p>・「原価計算」は2年3年で学ぶ「財務会計」などの簿記会計科目を発展的に学ぶため、原価計算の内容を学びます。・原価計算に関する法規と基準の改正などに随時対応しながら、実務に即した例題を取り入れた学習活動及び取引の記録と財務諸表の作成の方法について考察や討論を行う学習活動を通して、適正な計算方法と製造原価報告書の作成ができるようにしていきます</p> |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|----------------------------|---|-----|
| 4 | 第1章 原価と原価計算 | 【知】 製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。 【思】 工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。 【主】 製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。 | 2 |
| 5 | 第2章 原価計算のあらまし | 【知】 原価要素の性格とその分類について理解している。 ・原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。 【思】 原価計算の目的について理解し、どのような場面で活用されるかについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 4 |
| 6 | 第3章 工業簿記—製造業における簿記— | 【知】 工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。 【思】 製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 3 |
| | 第4章 材料費の計算 | 【知】 材料費の分類とその内容を理解している。 材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。 【思】 予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 9 |
| | 【前期中間考査】 | | 2 |
| | 第5章 労務費の計算 | 【知】 労務費の分類とその内容を理解している。労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。 【思】 賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 9 |
| | 第6章 経費の計算 | 【知】 経費の分類とその内容を理解している。経費の消費高を計算できる。 【思】 経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳方法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 2 |
| 7 | 第7章 個別原価計算 | 【知】 原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。 個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。 【思】 製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。 実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。 【主】 個別原価計算の記帳方法について関心を持ち、意欲的に記帳に取り組むことができる。 | 4 |
| 8 | 【前期期末考査】 | | 16 |
| | 第8章 部門別個別原価計算 | 【知・思】 部門別個別原価計算の必要性が理解できている。 部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 2 |
| 9 | 第9章 総合原価計算 | 【知】 単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。 平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。 等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成できる。 組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表を作成できる。 【思】 生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理解し、個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 7 |
| 10 | 第10章 工程別総合原価計算 | 【知】 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。 工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。 【思】 なぜ、工程別計算を行うのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 12 |
| 11 | 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 | 【知】 減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。 副産物、作業くず、仕損品の意味と、それが発生した場合の記帳方法について理解している。 【思】 総合原価計算における減損・仕損じなどはどのように処理するのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 3 |
| | 第12章 製品の完成と販売 | 【知】 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。 販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 【思】 財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 7 |
| | 第13章 決算と本社・工場間の取引 | 【知】 工場会計の独立を理解し、記帳ができる。 【思】 製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 3 |
| 12 | 第14章 標準原価計算（その1） | 【知】 標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 【思】 なぜ、原価標準を設定するのかについて理解している。 【主】 原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。 | 5 |
| 1 | 第15章 標準原価計算（その2） | 【知】 パーシャルプラン、シングルプランによる記帳ができている。 【思】 原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 5 |
| 2 | 第16章 直接原価計算（その1） | 【知】 直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 【思】 直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。 【主】 利益計算について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢がみられる。 | 4 |
| 3 | 第17章 直接原価計算（その2） | 【知】 CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係が理解できている。 損益分岐点を求めることができる。高低点法による原価予測ができる。 【思】 損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 | 4 |
| | | | 合計 |
| | | | 105 |

| | | |
|----------|----|---------------------|
| 通し番号 | 69 | ←通し番号を打つと下記に表示されます。 |
| 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|---------|---|----|---------|-----------|-----|
| 情報ビジネス科 | 2,3 年 | 商業 | プログラミング | 選択 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p> | | | | |
| 教材 | プログラミング (東京法令出版) | | | | |
| 留意点 | | | | 開講予定人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けたか。 |
| 思考・判断・表現 | 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けたか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けたか。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト・ワークシート |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ワークシート・学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| 全商 情報処理検定試験 プログラミング部門2級程度の内容を学習します。(9月と1月に実施) |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|---|-----------|
| 4 | 第1章「情報システムの重要性」 第1節「情報システムとプログラム」 第2節「情報システムの活用」 | 【知】【思】【主】 情報システムやプログラムの概要について理解している。 身の回りにはどのような情報システムがあるか、考えようとしている。・情報システムの概要を学習することについて、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 5 | 第2章 「ハードウェアとソフトウェア」 第1節 「ハードウェアの機能と動作」 第2節 「ソフトウェアの体系と役割」 | 【知】【思】【主】 コンピュータの構成要素について、五大機能・五大装置などと関連させて理解している。 コンピュータでさまざまな情報を処理し、表現する方法について考えようとしている。 コンピュータの構成要素や情報表現、命令実行の仕組みに関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 6 | 【前期中間考査】 第3章「アルゴリズムの表現技法とデータ構造」 第1節「アルゴリズムの表現技法」 第2節「データ構造」 | 【知】【思】【主】 アルゴリズムとは何か、理解している。流れ図によってアルゴリズムを表す方法について理解している。 何かを処理する場合におけるアルゴリズムの重要性について考えようとしている。 アルゴリズムを表現する方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 12 |
| 7 | 第4章 「手続き型言語のプログラミング」 第1節「プログラミングの手順」 | 【知】【思】【主】 表計算ソフトウェアを用いてプログラミングをするための基本的な技術・操作方法を習得している。ユーザフォームとは何か、理解している。 | 9 |
| 8 | 第2節「データの出力と演算」 | プロセスについて理解している。イベントに関連して発生するイベントプロシージャについて理解している。 | 6 |
| 9 | 第3節「条件判定と繰り返し処理」 | 学習した知識や技術を用いて、課題を解決するためのプログラムを作成する方法を考えようとしている。 | 12 |
| 10 | 【前期期末考査】 第4節「配列の利用」 | 表計算ソフトウェアでプログラミングを行う基本的な方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 12 |
| 11 | | | 9 |
| 12 | 【後期中間考査】 第5章「プログラムと情報システムの開発」 第1節 「情報システム開発の手順と手法」 第2節「プロジェクト管理」 第3節 「情報システムの評価と改善」 第4節 「情報システム開発と法規等」 | 【知】【思】【主】 情報システム開発の全体像について理解している。情報システムの開発手法について理解している。 開発手法ごとの長所や短所を踏まえ、どのような場合にどのような開発手法を用いるとよいか、考えようとしている。 情報システム開発の手法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 1 | 第6章「手続き型言語を用いた情報システムの開発」 第1節 「情報システムの開発演習①」 | 【知】【思】【主】 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を、実用的に使用できる形で理解・習得している。 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を活用し、求められている機能を備えたシステムを開発する方法を考えようとしている。 | 6 |
| 2 | 第2節 「情報システムの開発演習②」 | 情報システムの開発に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 6 |
| 3 | 【後期期末考査】 | | 6 |
| | | | 合計 105 |

| | | |
|----------|----|---------------------|
| 通し番号 | 84 | ←通し番号を打つと下記に表示されます。 |
| 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|---------|--|----|---------------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 2,3 年 | 商業 | ビジネスコミュニケーション | 必修 | 3 |
| 科目の目標 | 商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を育成することを目指す。 | | | | |
| 教材 | ビジネスコミュニケーション（実況出版） | | | | |
| 留意点 | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他社と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|---------------------|
| 知識・技能 | 小テスト、定期考査、ワークシートの提出 |
| 思考・判断・表現 | 小テスト、ワークシート、定期考査 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 小テスト、ワークシート、定期考査 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|---|-----|
| 4 | 1章企業の組織と人間関係 1. 企業の組織と意思決定 2. 業務の進行方法 3. 仕事に対する心がまえ 4. 人的ネットワークの構築 | 第1章【知】【思】【主】 ・組織の構造と意思決定の関係を理解する。 ・業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を理解する。 ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法を理解する。 ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解する。 ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解する。 | 13 |
| 5 | 2章応対に関するビジネスマナー 1. 挨拶 2. 身だしなみ・表情・身のごなし 3. 言葉遣い 4. 名刺交換と紹介 5. 訪問・来客の応対 | 第2章【知】【思】【主】 ・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。 ・身だしなみ・表情・身のごなしなどを理解し、実践する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。 ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。 ・訪問・来客の対応などを理解し、実践する。 | 15 |
| 6 | 6. 電話の応対 7. 席次のマナー 3章交際に関するビジネスマナー 1. 交際のマナー 2. 食事のマナー | 第3章【知】【思】【主】 ・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 ・食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 | |
| 7 | 4章接客に関するビジネスマナー 1. 接客 2. ホスピタリティの概念と重要性 | 第4章【知】【思】【主】 ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解し、実践する。 ・ホスピタリティについて理解し外国人に対する接客の注意点について考察する。 | |
| 8 | 5章コミュニケーションの役割と思考方法 | 第5章【知】【思】【主】 ・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。 ・論理的な考え方やビジネスにおけるフレームワークを理解する。 | 18 |
| 9 | 1. コミュニケーションの役割と種類 2. ビジネスコミュニケーションの基本 3. ビジネスにおける思考方法 4. ディベート | 第6章【知】【思】【主】 ・ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。 ・ディスカッションの方法や意義を理解し、討論することができる。 ・プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行うことができる。 ・交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を理解し、実践する。 ・店頭やネットショップ、ワークショップにおける効果的な商品説明について理解し、実践する。 ・ソーシャルメディアによる情報発信の有用性と注意点について理解し、実例を挙げることができる。 | 14 |
| 10 | 6章ビジネスにおけるコミュニケーション 1. ディスカッション 2. プレゼンテーション 3. 交渉 4. 苦情対応 5. 商品説明とワークショップ 6. ソーシャルメディアを活用した情報発信 | 第7章【知】【思】【主】 ・会議の目的と種類、基本的な流れや会場設営、議事の進め方や議事録の作成方法などについて理解する。 ・文書の種類と内容、社外文書・社内文書の作成方法、電子メールの利用、はがきや封筒の書き方や郵便物の特殊なサービスなどについて理解する。 | 15 |
| 11 | 7章コミュニケーションとビジネススキル 1. 会議 2. 文書におけるコミュニケーション | 第8章【知】【思】【主】 ・市場の国際化、ビジネスシーンの国際化について理解する。 ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。 ・ノンバーバルコミュニケーションの重要性について理解する。 ・コミュニケーションツールとしての英語について理解する。 | |
| 1 | 8章企業活動のグローバル化 | | 10 |
| 2 | 1. 国際化の進展とビジネス | ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。 | 12 |
| 3 | 2. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション | | 8 |
| | | | 合計 |
| | | | 105 |

| | | | | | |
|------|----|----------|--|------------------|--|
| 通し番号 | 74 | 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス | |
|------|----|----------|--|------------------|--|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修・選択 | 単位数 |
|---------|---|---|----|-------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 国語 | 生活の国語 | 必修 | 1 |
| 科目の目標 | <p>日常生活や社会における言語活動に必要な国語の知識・技能を習得し、それらを適切に活用して思考を深め、目的や場面に応じた表現ができる資質・能力を育成する。</p> <p>①知識及び技能 日常生活や社会における言語活動の役割を理解し、公的な書類やビジネス文書を適切に読み取り、目的に応じた活用ができる知識・技能を身につける。</p> <p>②思考、判断、表現 目的や場面、相手に応じて適切に受け止め、表現する力を養い、適切な表現を選択できる力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 他者と協力して学び合いながら、よりよい表現を追究する態度を身につける。</p> | | | | | |
| 教材 | 未定 | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 日常生活や社会における言語活動の役割を理解し、公的な書類やビジネス文書を適切に読み取り、目的に応じた活用ができる知識・技能を身につけている。 |
| 思考・判断・表現 | 目的や場面、相手に応じて適切に受け止め、表現する力を養い、適切な表現を選択できる力を身につけている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 他者と協力して学び合いながら、よりよい表現を追究する態度を身につけている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------|
| 知識・技能 | 小テスト・単元テスト |
| 思考・判断・表現 | 小テスト・単元テスト、提出課題 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 提出課題 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| <p>一年生で使用した「現代の国語」の教科書や「ゴイカン」を使用する場合がありますので、捨てずに保管してください。</p> |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---------------|--|----------|
| 4 | ○オリエンテーション | | 1 |
| 5 | ○情報を正しく読み取る | 【知】情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。 【思】目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 | 4 |
| 6 | ○批判的に読む | 【主】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | 3 |
| 7 | ○文章の書き方の種類を知る | 【知】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 | 3 |
| 8 | ○様々な文章を書く | 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 【主】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | 6 |
| 9 | ○情報を聞く | 【知】話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分ける。 【思】論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。 | 2 |
| | ○考えを聞く | 【主】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | 2 |
| 10 | ○意見を話す「スピーチ」 | 【知】自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 | 5 |
| 11 | | 【思】自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 【主】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | |
| 12 | | | |
| 1 | ○話し合う「ディベート」 | 【知】言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解する。 【思】論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。 【主】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 | 6 |
| 12 | | | |
| 1 | | | |
| | | | 合計 32 |

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 通し番号 | 75 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|---|---|------|------|-----------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 地歴公民 | 歴史総合 | 必履修 | 2 |
| 科目の目標 | <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする【知識及び技能】</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関係や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を粗野に課題を主体的に追求、解決使用とする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての次各区などを深める。【学びに向かう力、人間性等】</p> | | | | | |
| 教材 | <p>歴史総合 みる・よみとく・考える (山川出版社)</p> <p>歴史総合ノート みる・よみとく・考える (山川出版社)</p> | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察 |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査・小テスト、ワークシート、学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|---|----------|
| 4 | 1節 歴史と私たち 世界とつながる旅行の歴史 ～身近なものから歴史を考えてみよう～ | ○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史について歴史が叙述されていることを理解する。 ○中学校の歴史的分野で学習した内容を基に、前近代の日本と世界の間について振り返る。 | 4 |
| 5 | 2節 結びつく世界と日本の開国 | 18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。 18世紀の東アジア諸国がどのような関係を築き、どのような経済発展をしていったのかについて理解する。 | 6 |
| 6 | 3節 国民国家と明治維新 | 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 | 9 |
| 7 | 4節 近代化と現代的な諸課題 | 植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。 | 9 |
| 8 | | 20世紀初期、帝国主義に対して人々がどのような態度を示し、アジア諸国はどのような動きを見せたのかについて理解する。 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 | |
| 9 | 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い | 国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 | 10 |
| 10 | 2節 第一次世界大戦と大衆社会 | 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 | 6 |
| 11 | 3節 経済危機と第二次世界大戦 | 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 | 10 |
| 12 | 4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 1節 グローバリゼーションへの問い 2節 冷戦と世界経済 | 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。 生活と文化に関する写真等から、国際秩序の変化や大衆化の歴史を振り返り、理解を深める。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバリゼーションに伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。 | |
| 1 | 3節 世界秩序の変容と日本 | アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバリゼーションの特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 | 5 |
| 1 | 4節 現代的な諸課題の形成と展 | 科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。 | 5 |
| | | | 合計 64 |

| | |
|------|----|
| 通し番号 | 76 |
|------|----|

令和7年度入学生

北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|--|---|----|------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 理科 | 生物基礎 | 必履修 | 2 |
| 科目の目標 | <p>①知識及び技能 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。</p> <p>②思考、判断、表現 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | 新編生物基礎（東京書籍） | | | | | |
| | ニューサポート 改訂 新編生物基礎（東京出版） | | | | | |
| | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | ・生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけた。 |
| 思考・判断・表現 | ・生物や生物現象についての知識を活用し、思考することができた。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につけた。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------|
| 知識・技能 | 定期考査、小テスト |
| 思考・判断・表現 | 定期考査、小テスト、ワークシートの取り組み |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ワークシートの取り組み、授業態度 |

3 履修上および学習上の注意

- 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 学んだことをより正確に記録する方法と態度を身につけること。

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|--|----------|
| 4 | 第1章 生物の特徴 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 生物の進化と系統 4 細胞と個体の成り立ち | (知) 生物がもつ多様性と共通性を理解している。 (知) 細胞のしくみや生物の構造を整理し、理解している。 (主) 細胞の観察手法や顕微鏡操作に主体性を持って理解しようと取り組み、実験結果を正しくまとめ、アウトプットしようとする。 | 14 |
| 5 | 5 真核細胞の構造 6 原核細胞の構造 7 生命活動とエネルギー 8 ATP の構造 9 生体内の化学反応と酵素 10 光合成と呼吸 【前期中間考査】 | (思) 脊椎動物に至るまでの進化の道筋と関連付けて考察できる。 (知) 代謝を正しく認識することができる。 (知) 植物にとって光エネルギーの持つ意味を正しく理解している。 (知) 生物が有機物を利用する意味と必要性、しくみを正しく理解している。 | |
| 6 | 第2章 遺伝子とその働き 11 生物と遺伝情報 12 DNA の構造と遺伝情報 13 DNA 複製 14 DNA と染色体 | (知) 生物学における遺伝子の正しい意味を認識することができる。 (主) 遺伝子本体の物質の解明に向けた先人の実験手法や結果に関心を持って理解しようとする。 (知) 遺伝情報をにたう物質としてのDNAの特徴について理解している。 (知) DNAが複製され分配されることにより、増殖した細胞に遺伝情報が伝えられることを理解している。 | 13 |
| 7 | 15 細胞周期とDNA の分配 16 細胞周期とDNA 量の変化 17 遺伝子発現とタンパク質 18 転写と翻訳 19 遺伝暗号表 | (知) 塩基配列がタンパク質の種類を指定するしくみを理解している。 (思) 遺伝子に関連する、S N S 上などで拡散している情報について正しく認識することができる。 | |
| 8 | 20 遺伝子発現と維持 【前期期末考査】 | | |
| 9 | 第3章 神経系・内分泌による調節 21 恒常性と体液 22 血液凝固と線溶 23 恒常性に関わる神経系 24 自律神経系と脳死 25 ホルモンによる調節 | (知) 体内環境の恒常性が保たれるしくみを理解している。 (知) 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解している。 (知) 心拍数、体温、血糖量を調節することの必要性を正しく理解している。 (主) 自律神経系や内分泌系が、心拍数、体温、血糖量などを調節するしくみに関心を持って探究しようとする。 | 13 |
| 10 | 26 ホルモン分泌の調節 27 血糖濃度の変化と糖尿病 28 血糖濃度の調節のしくみ | | |
| 11 | 29 体温と水分量の調節 【後期中間考査】 | | |
| | 第4章 免疫 30 生体防御の概要 31 異物の侵入を阻止するしくみ 32 自然免疫のしくみ 33 獲得免疫の概要 34 細胞性免疫と体液性免疫 35 抗体とその利用 36 免疫記憶とその利用 37 免疫と病気① 38 免疫と病気② | (知) 免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解している。 (知) それぞれの免疫細胞の役割とそれらを制御するしくみを理解している。 (思) 予防接種をはじめとした免疫に関する医療技術やその諸問題に科学的な判断と考察ができる。 | 10 |
| 12 | 第5章 植生と遷移 39 環境と生物 40 光の強さと植物 41 森林の階層構造と土壌 42 遷移の過程 43 遷移に伴う環境の変化 44 遷移と世界のバイオーム 45 日本のバイオーム 【後期期末考査】 | (知) 陸上には気象条件に適応した多様な植生が見られることを理解している。 (知) 植生は、植物自身が変成した環境に適応した結果、長期的に移り変わっていくことを理解している。 (主) 気候に適応した様々なバイオームが成立していることとその特徴を整理しようとする。 | 10 |
| 1 | 第6章 生態系とその保全 46 生態系における生物の役割 47 種の多様性と食物連鎖 48 生態系と生態ピラミッド 49 キーストーン種と絶滅 50 生態系のバランスと変動 51 人間活動と生態系 52 生物濃縮 53 外来生物 54 生物多様性と生態系の保全 55 生態系と人間生活 | (思) 生態系のバランスについての理解に基づき、生態系保全と人間生活の関わり的重要性を認識する。 | 10 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| | | | 合計 70 |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 77 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|---|---|----|----|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 保体 | 体育 | 必履修 | 2 |
| 科目の目標 | <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p> | | | | | |
| 教材 | 現代高等保健体育（大修館書店） | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。 |
| 思考・判断・表現 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------|
| 知識・技能 | 実技テスト・ゲーム、ワークシート |
| 思考・判断・表現 | 実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 実技テスト・ゲーム、ワークシート、学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| <p>・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと。・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。・領域選択Ⅱ期とⅢ期は同一種目を選択することはできない。・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。</p> |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|--|----------|
| 4 | オリエンテーション | | 1 |
| | 1「体づくり運動」 | 「体づくり運動」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、 | 6 |
| | 2「体育理論」 | 「体育理論」 【知】豊かなスポーツライフ設計の仕方について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】主体的に学習に取り組んでいる | 3 |
| 5 | 3「球技<ネット型> (バレーボール)」 「球技<ベースボール型> (ソフトボール)」 | 「球技<ゴール型>」 【知】状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている | 10 |
| 6 | 4「球技<ネット型> (ソフトテニス)」 「球技<ネット型> (バドミントン)」 | 「球技<ネット型>」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている | 10 |
| 8 | 5「領域選択Ⅰ期」 ・球技<ネット型> (バレーボール) ・球技<ベースボール型> (ソフトボール) ・陸上競技 | 「球技<ベースボール型>」 【知】状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている | 11 |
| 10 | 6「領域選択Ⅱ期」 ・球技<ゴール型> (バスケットボール) ・球技<ネット型> (バドミントン) ・球技<ネット型> (卓球) ・武道(柔道) ・「ダンス」 | 「武道(柔道)」 【知】相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている | 10 |
| 11 | 7「領域選択Ⅲ期」 ・球技<ゴール型> (バスケットボール) ・球技<ネット型> (バドミントン) ・球技<ネット型> (卓球) ・武道(柔道) ・「ダンス」 | 「ダンス」 【知】ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、互いに共感している | 10 |
| 12 | 8「体育理論」 | ※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる ※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している | 3 |
| | | | 合計 64 |

| | |
|------|----|
| 通し番号 | 78 |
|------|----|

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |
|-----------------|-------------------------|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|---------|---|----|--------------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 年 | 英語 | 英語コミュニケーションⅡ | 必修 | 2 |
| 科目の目標 | <p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと ア：日常的・社会的な話題について、一定の支援があれば必要な情報を聞き取り、話の展開や意図、概要・要点・詳細を把握できるようにする。 イ：日常的・社会的な話題について、一定の支援があれば必要な情報を読み取り、文章の展開や意図、概要・要点・詳細を把握できるようにする。</p> <p>(2) 読むこと ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、詳しく伝え合いながら会話を続けられるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に詳しく伝え合えるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り] ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、論理的に詳しく伝えられるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的に詳しく伝えられるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表] ア：日常的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、論理的で詳しい文章を書けるようにする。 イ：社会的な話題について、一定の支援があれば多様な語句や文を使い、聞いた・読んだ内容を基に論理的で詳しい文章を書けるようにする。</p> | | | | |
| 教材 | All Aboard! English Communication II (東京書籍) | | | | |
| | All Aboard II WORKBOOK II (東京書籍) | | | | |
| | クラウン チャンクで英単語 Basic(三省堂) | | | | |
| | | | | | |
| 留意点 | 2 学年「英語コミュニケーションⅡ」から継続履修です。 | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることで、話の展開や話し手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して詳しく伝えている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|--------------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テストリスニングテスト 等 |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--------------------------------|
| ・言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。 |
|--------------------------------|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|--|----|
| 4 | Lesson 6 | <p>(知) 動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味を理解している。また、京野菜について学んだり、京野菜のポスターに書かれた事柄や地元の有名な場所やものについて調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) 伝統野菜に関して書かれた文章について考えや情報などを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 伝統野菜に関して書かれた文章について、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> | 8 |
| 5 | Word Box 3 | 仕事や職業を表すのによく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解している。 | 2 |
| 6 | 前期中間考査 | | |
| 7 | Lesson 7 | <p>(知) 関係副詞where, whenを用いた文の形・意味を理解している。また、世界中で壁画を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) 世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 世界中で壁画を描く活動に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> | 8 |
| 8 | Communication 2 Getting the Necessary Information | 海外旅行先の空港で入国審査の手続きをするにあたり、旅行の目的や滞在日数などを申告する仕方を理解している。 目的地までの行き方を案内するにあたり、地下鉄の路線図を見ながら、相手が理解しやすいような案内をしようとしている。 | 2 |
| 9 | 前期期末考査 | | |
| 10 | Lesson 8 | <p>(知) 知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>(思) 生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> | 9 |
| | 文法のまとめ 3 | (知) 使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について調べた事柄を整理・理解している。 | 2 |
| | Lesson 9 | <p>(思) チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> | 9 |
| 11 | エッセイライティング | 興味をもっている社会問題に関して、必要な情報や感想・意見などを英語のエッセイの流れに構成して、読む者が理解しやすいようなエッセイを書いている。 | 2 |
| | Extra Target 2 後期中間考査 | (知) 仮定法過去 (I wish + 過去形の文) を用いた文の形・意味を理解している。 ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について調べた事柄を整理・理解している。 | |
| 12 | Lesson 10 | <p>(思) 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>(主) 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> | 9 |
| | 文法のまとめ4 | 自分たちで結末を考えた、英語で書かれたBear's Pieの内容を理解している。また、登場人物の気持ちや聞いている者に伝わるように、朗読する知識を身につけている。 | 2 |
| 1 | Reading 2 | | 9 |
| | Word Box 5 | 自分が何時ごろに何をするかについて、平日の生活でよく使われる語句や表現を用いて書いて、適切な発表を行っている。 | 2 |
| | | | 合計 |
| | | | 64 |

| | |
|------|----|
| 通し番号 | 79 |
|------|----|

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |
|-----------------|-------------------------|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修・選択 | 単位数 |
|---------|---|---|----|-------|----------|---------|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 数学 | 生活の数学 | 必修 | 2 |
| 科目の目標 | 身の回りの数学について、基礎的な計算力の定着を図る。また、数学的な表現の工夫について、活用する態度を身につけることができる。経済にまつわる数学やコンピュータの原理について理解することができる。歴史の中で数の表現を学び、いろいろな計算ができる。 | | | | | |
| 教材 | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定人数 | 必修のため全員 |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 事象を数学的に表現・処理する方法や推論の方法などの技能を身につけている。また、数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。 |
| 思考・判断・表現 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|----------------------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・単元テスト・小テスト |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・単元テスト・小テスト・ワークシート・授業中の発言や発表 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 授業への取り組み姿勢・週末課題・長期休業中の課題 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|-----------------------------------|
| 基礎的な数学の知識や技能を幅広く身につけることを目的としています。 |
|-----------------------------------|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|--|----|
| 4 | 第1章 身の回りの数学 第1節 いろいろな場合の数 試合数は全部でいくつか、 樹形図で考えよう、点字のしくみ、最短距離 の道順 | 【知】実生活における数学について、具体例を通して数学の有用性を理解し、計算することができる。 作図や工作を通し、図形の性質についての理解を深め、デザインの美しさや素晴らしさを感じ取ることができる。 【思】数学的な表現の工夫について、具体例を通し事象を数学的に表現し、それらを活用する態度を身につけることができる。 【主】積極的に課題や作業に取り組んだり、それらを理解しようとしている。 | 7 |
| 5 | 第2節 身の回りの図形 紋章の美しさ、平面を敷き詰める、多面体の 性質、正多面体の展開図 | | 7 |
| 6 | 【前期中間考査】 | | 1 |
| 7 | 第3節 数学的な表現のくふう 道順とあみだくじ、7つの橋は渡れるか、行 列と経路、行列の積、航路と行列の積 | | 10 |
| 8 | 第2章 社会生活と数学 第1節 経済と数学 福引きの賞金と期待値、単利法のしくみ、複 利法のしくみ、ローンの返済 | 【知】社会生活で実際に活用されている経済にまつわる数学を取り上げ、計算の違いから数学的な 変化の違いを理解することができる。コンピュータの簡単な原理について理解し、数学がコン ピュータの活用にとって大きな役割を果たしていることを認識している。 【思】社会生活を営む上で人間がつくった数理的な仕組みについて、具体例を通し理解すること ができる。 【主】積極的に課題や作業に取り組んだり、それらを理解しようとしている。 | 7 |
| 9 | 【前期期末考査】 | | 1 |
| 10 | 第2節 測定と数学 本の大きさいろいろ、地図を読もう、坂道の 角度を求めよう、建物の高さを求めよう | | 7 |
| 10 | 第3節 コンピュータと人間の活動 コンピュータと2進法、GPS 衛星、近似直線、標本調査 | | 5 |
| 11 | 第3章 数学の発展と人間の活動 第1節 数と人間 エジプトとバビロニアの数学、 ローマの数字と5進法、 | 【知】数学の歴史の中での数の表現を通し、数学の諸概念と人間の活動との関わりについて理解 し、いろいろな計算ができる。 図形に関する諸概念が数学の歴史の流れの中でどのように形成されたかを理解し、数学の歴史をよ り一層身近なものとして感じ取ることができる。 【思】数学と文化が深く関わっていることを認識し、日常生活の中にある事象を通し、数学と人間 の活動との関わりを理解することができる。 【主】積極的に課題や作業に取り組んだり、それらを理解しようとしている。 | 4 |
| 12 | 【後期中間考査】 | | 1 |
| 12 | 0の発見と位取り、四角数と三 角数、フィボナッチ数列 | | 5 |
| 1 | 第2節 図形と人間 古代の測量と図形の面積、ピラミッドの高 さ、三平方の定理の誕生、ピタゴラスと三平方の 定理、円周率と円の面積、黄金比と2次方程式 | | 9 |
| | | | 合計 |
| | | | 64 |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 80 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|--|---|----|--------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 商業 | 観光ビジネス | 選択 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスイングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | 観光ビジネス (実教出版) | | | | | |
| | 観光ビジネス 準拠問題集 (実教出版) | | | | | |
| | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 国内における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光に関する知識と技術を身に付ける。 |
| 思考・判断・表現 | 観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光に関する課題を発見するとともに、観光が社会に及ぼす影響を踏まえ、観光に関する消費行動についての理解、市場の動向、観光に関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考える力を養う。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、事業所等と協力し、観光コンテンツの企画と実施などに責任をもって取り組む態度を養う。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト・ワークシート |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト・ワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ワークシート・提出物 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|---|----------|
| 4 | 第1章 観光とビジネス 1. 観光の歴史と発展 2. 松下幸之助と観光 3. 観光ビジネスの特徴 4. 観光ビジネスの動向 | 【知】観光とビジネスの関係性に関する概要について理解している。 【思】観光の意義と課題について、現代観光市場の特徴と関連付けて見いだしている。 【主】観光について自ら学び、地域や消費者の動向などを踏まえ観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 13 |
| 5 | 第2章 観光資源と観光政策 1. 留萌市の観光資源 2. 北海道の観光資源 3. 国内の観光資源 【前期中間考査】 | 【知】地域等の観光資源の現状とその活用について理解している。 【思】観光資源の再認識と資源化までの政策過程について、地域の活性化へ影響を与える要因を関連付けて見いだすことができる。 【主】観光資源の活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 14 |
| 6 | 4. 日本の文化 5. 観光資源の保護と保全 6. 観光政策の動向 | | 1 |
| 7 | 第3章 観光ビジネスとマーケティング 1. 観光ビジネスの主体 2. 観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴 3. 顧客の理解 4. 顧客サービス 【前期末考査】 | 【知】観光ビジネスに対するマーケティング活動について企業や自治体における事例と関連付けて理解する。 【思】観光ビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、評価・改善するとともに、改善計画を科学的に検討することができる。 【主】自ら学び、観光ビジネスに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 16 |
| 8 | 第4章 観光ビジネスの展開と効果 | 【知】観光ビジネスを活用した地域活性化について企業や自治体における事例と関連付けて理解する。 | 15 |
| 9 | 1. 観光振興とまちづくりの関係 | 【思】まちづくりの課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、歓呼の視点から対応策を考えている。 | |
| 10 | 2. 観光に関する地域の課題 3. 地域の活性化 | 【主】地域活性化について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | |
| 11 | 【後期中間考査】 | | 1 |
| 12 | 第5章 目的地の創造 1. 目的地の創造に関する事例研究 | 【知】目的地の創造について企業における事例と関連付けて理解している。 【思】目的地の創造に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、政策を立案して実施し、評価・改善している。 【主】目的地の創造製品政策について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、製品政策に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 20 |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | 2. 新しい日本文化 ・エンターテインメントビジネス ・海外でのアニメ評価 | 【知】価格政策について企業における事例と関連付けて理解している。 | |
| | | | 合計 96 |

| | | |
|----------|----|---------------------|
| 通し番号 | 81 | ←通し番号を打つと下記に表示されます。 |
| 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必修・選択 | 単位数 |
|---------|---|----|-------|----------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 年 | 商業 | 財務会計Ⅱ | 必修 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 開経会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断解を分析する力を養う。</p> <p>(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | |
| 教材 | | | | | |
| 留意点 | | | | 開講予定人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、それらを活用し経営分析及び経営判断に役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。 |
| 思考・判断・表現 | 企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と実務に適用することとともなう課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力および経営分析とその改善を総合的に分析する力が身についている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 会計責任を果たす力の向上を目指してみずから財務会計について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、財務諸表の作成と適切な分析などによる会計情報の提供と効果的な活用責任をもって取り組む態度が身についている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------|
| 知識・技能 | レポート 定期考査 |
| 思考・判断・表現 | レポート 定期考査 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査 学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|----------------------------|
| ・2学年で学ぶ「財務会計Ⅰ」を発展させた内容である。 |
|----------------------------|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|---|---------|
| 4 | 第1編 総論－財務会計の基本概念と会計基準－ 第1章 財務会計の基本概念 | 【知】財務会計の基本概念を理解したか。 【思】財務諸表の構成要素の定義がなぜ必要であるのか、その理由を考えたか。 | 10 |
| 5 | 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合 | 【主】財務諸表の構成要素など財務会計の基本概念の学習に興味を示し、自ら進んで学習しようとする。 | 12 |
| 6 | 第2編 各論（1）－財務会計の実際－ 第4章 資産会計 第5章 負債会計 第6章 純資産会計 | 【知】資産・負債・純資産の評価基準や評価方法について理解したか。現在価値の計算や利息法による評価について基礎理論を考え、各種資産の評価に当たり、適切な判断ができたか。 【思】資産・負債・純資産の評価についての基礎理論を考え、各種資産の評価に当たり、適切な判断ができたか。 【主】資産・負債・純資産の評価基準や評価方法の理解に高い関心を持ち、特に減損の会計処理の学習 | 1 |
| 7 | 第7章 損益会計 | | 9 |
| 8 | 第8章 リース会計 | | 9 |
| 9 | 第9章 税効果会計 | | 6 |
| 10 | 第3編 各論（2）－企業活動の展開と財務会計－ 第10章 外貨換算会計 第11章 キャッシュ・フロー計算書 | 【知】外貨建取引の意味、基本的な会計処理および外貨建項目の決算時の会計処理を理解したか。また、外貨換算会計についての基礎理論を考え、外貨建取引発生日・決済日・決算日の会計処理について適切な判断ができたか。 【思】外貨換算会計についての基礎理論を考え、外貨建取引発生日・決済日・決算日の会計処理について適切な判断ができたか。 【主】外貨換算会計の内容に高い関心を持ち、その記帳法の学習を積極的に進めようとしたか。 | 9 10 |
| 11 | 第4編 各論（3）－企業結合の会計－ 第13章 連結財務諸表の作成（その1） 第14章 連結財務諸表の作成（その2） 第15章 持分法 第16章 連結税効果会計 | 【知】企業結合会計、特に吸収合併における会計処理を理解したか。 【思】企業結合会計についての基礎理論を考え、合併の会計処理について適切な判断ができたか。 【主】企業結合会計の意味および合併会計の理解に関心を高め、その学習を積極的に進めようとしたか。 | 12 |
| 12 | 第5編 財務諸表の活用 第17章 財務諸表の活用 | 【知】有価証券報告書などから企業グループの現状を把握する流れを理解したか。 【思】有価証券報告書などから企業グループの現状を考え、適切な判断ができたか。 【主】・企業グループの現状を把握するためには、どのようにすればよいかに高い関心を持ち、イン | 12 |
| 1 | 第5編 監査と職業会計人 第18章 監査と職業会計人 | 【知】会社法および金融商品取引法に基づく監査についての知識を身につけ、それぞれの特徴を理解したか。 【思】二つの法律とそれぞれの監査の異同について考えようとしている。 【主】監査のプロセスと監査手続などに強い関心を持ち、その学習を積極的に進めようとしている。 | 6 |
| 合計 | | | 96 |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 68 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必修・選択 | 単位数 |
|---------|---|----|------|----------|-----|
| 情報ビジネス科 | 2,3 年 | 商業 | 原価計算 | 選択 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> | | | | |
| 教材 | 原価計算（実教出版） | | | | |
| 留意点 | | | | 開講予定人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。 |
| 思考・判断・表現 | 原価計算をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 適切な原価管理をおこなう力の向上を目指してみずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に関与し責任をもって取り組む態度が身についている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|---------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト、学習観察 |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト、レポート、学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査・小テスト、レポート、学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| <p>・「原価計算」は2年3年で学ぶ「財務会計」などの簿記会計科目を発展的に学ぶため、原価計算の内容を学びます。・原価計算に関する法規と基準の改正などに随時対応しながら、実務に即した例題を取り入れた学習活動及び取引の記録と財務諸表の作成の方法について考察や討論を行う学習活動を通して、適正な計算方法と製造原価報告書の作成ができるようにしていきます</p> |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|----------------------------|---|-----|
| 4 | 第1章 原価と原価計算 | 【知】 製造業の特徴や原価の基本的な内容について理解している。 【思】 工業簿記と原価計算の関係について理解し、適用される場面を思考・判断することができる。 【主】 製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。 | 2 |
| 5 | 第2章 原価計算のあらまし | 【知】 原価要素の性格とその分類について理解している。 ・原価要素を集計する過程で原価計算表の役割を理解している。 【思】 原価計算の目的について理解し、どのような場面で活用されるかについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 4 |
| 6 | 第3章 工業簿記—製造業における簿記— | 【知】 工業簿記における勘定記入の特徴を理解し、一連の流れを記帳することができる。 【思】 製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 3 |
| | 第4章 材料費の計算 | 【知】 材料費の分類とその内容を理解している。 材料の仕入、消費に関わる処理を理解、適切に記帳することができる。 【思】 予定価格により消費高を計算することの意義について思考し、予定価格を用いた二通りの記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 9 |
| | 【前期中間考査】 | | 2 |
| | 第5章 労務費の計算 | 【知】 労務費の分類とその内容を理解している。労務費の計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる。 【思】 賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 9 |
| | 第6章 経費の計算 | 【知】 経費の分類とその内容を理解している。経費の消費高を計算できる。 【思】 経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳方法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 2 |
| 7 | 第7章 個別原価計算 | 【知】 原価元帳と仕掛品勘定の関係を理解できている。 個別原価計算のしくみを理解し、原価計算表に記入ができる。 【思】 製造間接費の配賦方法について理解し、適切に配賦を行える。 実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。 【主】 個別原価計算の記帳方法について関心を持ち、意欲的に記帳に取り組むことができる。 | 4 |
| 8 | 【前期期末考査】 | | 16 |
| | 第8章 部門別個別原価計算 | 【知・思】 部門別個別原価計算の必要性が理解できている。 部門費配分表、部門費振替表を作成でき、それぞれにもとづく記帳ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 2 |
| 9 | 第9章 総合原価計算 | 【知】 単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れが理解できている。 平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算ができる。 等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表を作成できる。 組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表を作成できる。 【思】 生産形態の違いから、原価計算の方法が異なることを理解し、個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 7 |
| 10 | 第10章 工程別総合原価計算 | 【知】 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解できている。 工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。 【思】 なぜ、工程別計算を行うのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 12 |
| 11 | 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 | 【知】 減損の意味と、それが発生した場合の処理方法について理解し、月末仕掛品原価の計算ができる。 副産物、作業くず、仕損品の意味と、それが発生した場合の記帳方法について理解している。 【思】 総合原価計算における減損・仕損じなどはどのように処理するのかについて考え、適切に判断して学習を進めている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 3 |
| | 第12章 製品の完成と販売 | 【知】 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法が理解できている。 販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できている。 【思】 財務諸表の特色を理解し、製造原価報告書の作成ができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 7 |
| | 第13章 決算と本社・工場間の取引 | 【知】 工場会計の独立を理解し、記帳ができる。 【思】 製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えている。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 3 |
| 12 | 第14章 標準原価計算（その1） | 【知】 標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価が計算できる。 【思】 なぜ、原価標準を設定するのかについて理解している。 【主】 原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。 | 5 |
| 1 | 第15章 標準原価計算（その2） | 【知】 パーシャルプラン、シングルプランによる記帳ができている。 【思】 原価差異の算出ができ、その結果から差異の原因について適切に分析することができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 5 |
| 2 | 第16章 直接原価計算（その1） | 【知】 直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できている。 【思】 直接原価計算による損益計算書の形式を理解し、作成できる。 【主】 利益計算について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢がみられる。 | 4 |
| 3 | 第17章 直接原価計算（その2） | 【知】 CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係が理解できている。 損益分岐点を求めることができる。高低点法による原価予測ができる。 【思】 損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができる。 【主】 本章の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。 | 4 |
| | | | 合計 |
| | | | 105 |

| | |
|------|----|
| 通し番号 | 69 |
|------|----|

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |
|-----------------|-------------------------|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|---|----|---------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 2,3 年 | 商業 | プログラミング | 選択 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p> | | | | |
| 教材 | <p>プログラミング（東京法令出版）</p> | | | | |
| 留意点 | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けられたか。 |
| 思考・判断・表現 | 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けられたか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けられたか。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト・ワークシート |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ワークシート・学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| 全商 情報処理検定試験 プログラミング部門2級程度の内容を学習します。（9月と1月に実施） |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|--|-----|
| 4 | 第1章「情報システムの重要性」 第1節「情報システムとプログラム」 第2節「情報システムの活用」 | 【知】【思】【主】 情報システムやプログラムの概要について理解している。 身の回りにはどのような情報システムがあるか、考えようとしている。・情報システムの概要を学習することについて、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 5 | 第2章 「ハードウェアとソフトウェア」 第1節 「ハードウェアの機能と動作」 第2節 「ソフトウェアの体系と役割」 | 【知】【思】【主】 コンピュータの構成要素について、五大機能・五大装置などと関連させて理解している。 コンピュータでさまざまな情報を処理し、表現する方法について考えようとしている。 コンピュータの構成要素や情報表現、命令実行の仕組みに関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 6 | 【前期中間考査】 第3章「アルゴリズムの表現技法とデータ構造」 第1節「アルゴリズムの表現技法」 第2節「データ構造」 | 【知】【思】【主】 アルゴリズムとは何か、理解している。流れ図によってアルゴリズムを表す方法について理解している。 何かを処理する場合におけるアルゴリズムの重要性について考えようとしている。 アルゴリズムを表現する方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 12 |
| 7 | 第4章 「手続き型言語のプログラミング」 第1節「プログラミングの手順」 | 【知】【思】【主】 表計算ソフトウェアを用いてプログラミングをするための基本的な技術・操作方法を習得している。ユーザフォームとは何か、理解している。 | 9 |
| 8 | 第2節「データの出入力と演算」 | 【知】【思】【主】 プロセスについて理解している。イベントに関連して発生するイベントプロシージャについて理解している。 | 6 |
| 9 | 第3節「条件判定と繰り返し処理」 | 【知】【思】【主】 学習した知識や技術を用いて、課題を解決するためのプログラムを作成する方法を考えようとしている。 | 12 |
| 10 | 【前期期末考査】 | | 12 |
| 11 | 第4節「配列の利用」 | 【知】【思】【主】 表計算ソフトウェアでプログラミングを行う基本的な方法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 12 | 【後期中間考査】 第5章「プログラムと情報システムの開発」 第1節 「情報システム開発の手順と手法」 第2節「プロジェクト管理」 第3節 「情報システムの評価と改善」 第4節 「情報システム開発と法規等」 | 【知】【思】【主】 情報システム開発の全体像について理解している。情報システムの開発手法について理解している。 開発手法ごとの長所や短所を踏まえ、どのような場合にどのような開発手法を用いるとよいか、考えようとしている。 情報システム開発の手法に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 1 | 第6章「手続き型言語を用いた情報システムの開発」 第1節 「情報システムの開発演習①」 | 【知】【思】【主】 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を、実用的に使用できる形で理解・習得している。 これまでに学習したシステム開発やプログラミングに関する知識や技術を活用し、求められている機能を備えたシステムを開発する方法を考えようとしている。 情報システムの開発に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 6 |
| 2 | 第2節 「情報システムの開発演習②」 | | 6 |
| 3 | 【後期期末考査】 | | 6 |
| | | | 合計 |
| | | | 105 |

| | |
|------|----|
| 通し番号 | 84 |
|------|----|

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |
|-----------------|-------------------------|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|---------|--|---|----|---------------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 商業 | ビジネスコミュニケーション | 必修 | 3 |
| 科目の目標 | 商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | |
| 教材 | ビジネスコミュニケーション（実教出版） | | | | | |
| | 準拠問題集（実教出版） | | | | | |
| | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他社と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|---------------------|
| 知識・技能 | 小テスト、定期考査、ワークシートの提出 |
| 思考・判断・表現 | 小テスト、ワークシート、定期考査 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 小テスト、ワークシート、定期考査 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|---|-----|
| 4 | 1章企業の組織と人間関係 1. 企業の組織と意思決定 2. 業務の進和方法 3. 仕事に対する心がまえ 4. 人的ネットワークの構築 | 第1章【知】【思】【主】 ・組織の構造と意思決定の関係を理解する。 ・業務の適切な進和方法やそれを実践する重要性を理解する。 ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法を理解する。 ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解する。 ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解する。 | 13 |
| 5 | 2章応対に関するビジネスマナー 1. 挨拶 2. 身だしなみ・表情・身のごなし 3. 言葉遣い 4. 名刺交換と紹介 5. 訪問・来客の応対 | 第2章【知】【思】【主】 ・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。 ・身だしなみ・表情・身のごなしなどを理解し、実践する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。 ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。 ・訪問・来客の対応などを理解し、実践する。 | 15 |
| 6 | 6. 電話の応対 7. 席次のマナー 3章交際に関するビジネスマナー 1. 交際のマナー 2. 食事のマナー | 第3章【知】【思】【主】 ・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 ・食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 | |
| 7 | 4章接客に関するビジネスマナー 1. 接客 2. ホスピタリティの概念と重要性 | 第4章【知】【思】【主】 ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解し、実践する。 ・ホスピタリティについて理解し外国人に対する接客の注意点について考察する。 | |
| 8 | 5章コミュニケーションの役割と思考方法 | 第5章【知】【思】【主】 ・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。 ・論理的な考え方やビジネスにおけるフレームワークを理解する。 | 18 |
| 9 | 1. コミュニケーションの役割と種類 2. ビジネスコミュニケーションの基本 3. ビジネスにおける思考方法 4. ディベート | 第6章【知】【思】【主】 ・ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。 ・ディスカッションの方法や意義を理解し、討論することができる。 ・プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行うことができる。 ・交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を理解し、実践する。 ・店頭やネットショップ、ワークショップにおける効果的な商品説明について理解し、実践する。 ・ソーシャルメディアによる情報発信の有用性と注意点について理解し、実例を挙げることができる。 | 14 |
| 10 | 6章ビジネスにおけるコミュニケーション 1. ディスカッション 2. プレゼンテーション 3. 交渉 4. 苦情対応 5. 商品説明とワークショップ 6. ソーシャルメディアを活用した情報発信 | 第7章【知】【思】【主】 ・会議の目的と種類、基本的な流れや会場設営、議事の進め方や議事録の作成方法などについて理解する。 ・文書の種類と内容、社外文書・社内文書の作成方法、電子メールの利用、はがきや封筒の書き方や郵便物の特殊なサービスなどについて理解する。 | 15 |
| 11 | 7章コミュニケーションとビジネススキル 1. 会議 2. 文書におけるコミュニケーション | 第8章【知】【思】【主】 ・市場の国際化、ビジネスシーンの国際化について理解する。 ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。 ・ノンバーバルコミュニケーションの重要性について理解する。 ・コミュニケーションツールとしての英語について理解する。 | |
| 1 | 8章企業活動のグローバル化 | | 10 |
| 2 | 1. 国際化の進展とビジネス | ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。 | 12 |
| 3 | 2. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション | | 8 |
| | | | 合計 |
| | | | 105 |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|---|---|----|----------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 商業 | ネットワーク活用 | 必履修 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | ネットワーク活用(実教出版) | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 |
| 思考・判断・表現 | ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組むことができる。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|----------------------------|
| 知識・技能 | 小テスト、定期考査、ワークシート、作品、演習 |
| 思考・判断・表現 | 小テスト、定期考査、ワークシート、作品、提出物、演習 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 小テスト、定期考査、ワークシート、作品、提出物 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| ・「ネットワーク活用」は、2年生で学んだ「ソフトウェア活用」の発展的な科目です。 |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|---|----------|
| 4 | 1章 情報通信技術の進歩とビジネス 1節 ICTにより創造される新しいビジネス | 【知】情報通信技術の進歩と、そのことによって何ができるようになったかを理解しているか。 【思】情報通信技術の進歩とビジネスの形態の変化を関連付けて説明できるか。 【思・主】IoT、ビッグデータ、AIなどの新しい利用技術に興味を持ち、これらを生かした新たなビジネスについて考察しようとしているか。 | 3 |
| | 2節 個人情報と知的財産の保護 | 【知】個人情報や知的財産の概要と、それを保護することの重要性を理解している。 【思・主】情報通信技術を活用する際に留意すべき個人情報や知的財産の取り扱い方を具体的な事例で考察し、説明することができる。 | 3 |
| | 3節 関連法規とガイドライン | 【知】ビジネスに情報通信技術を活用する際に守るべき法規やガイドラインの概要と、その必要性を理解している。 【思・主】情報セキュリティや電子商取引に関する法規やガイドラインの必要性を、情報通信技術を活用する際の具体的な課題と関連付けて考察し、説明することができる。 | 3 |
| 5 | 2章 情報コンテンツの制作 1節 図形と静止画 | 【知・思・主】図形と静止画の情報コンテンツについて、主体的に取り組み、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解し、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につけることができたか。 | 10 |
| 6 | 2節 音声と動画 前期中間考査 | 【知・思・主】音声と動画の情報コンテンツについて、主体的に取り組み、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解し、それらを作成・編集するための基本的な技術を身につけることができたか。 | 10 |
| 7 | 3章 企業情報の発信とWebデザイン 1節 Webページの制作とデザイン | 【知・思・主】Webページの制作について理解するとともに、企業情報の発信について有用なWebサイトおよびWebページを考案することができたか。Webページを制作するための知識と技術を身に付けるとともに、企業をロゴマークとして適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | 8 |
| 8 | 2節 Webページ制作の基礎 | 【知】基本的なHTMLのタグについて理解し、企業情報の発信について有用なWebサイトを作成する技術を身に付けることができたか。 | 12 |
| 9 | 前期期末考査 | 【思・主】CSSとJavaScript適用し企業にとって効果的なWebページとして適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | |
| 10 | 3節 Webページ制作の応用 | 【知】CMSの仕組みや利用する利点を理解するとともに適切に用いてWebサイトを構築する技術を身に付けることができたか。 【思・主】CMSを効果的に用いて企業にとって情報の発信に有用なWebサイトとして適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | 10 |
| 11 | 4章 インターネットと情報セキュリティ 1節 インターネットのしくみ 後期中間考査 | 【知・思・主】インターネットとネットワークの仕組みを理解し、関連する知識・技術を身につけ、科学的な根拠に基づいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について、課題を発見し、創造的に解決するために、組織の一員として、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | 6 |
| | 2節 ハードウェアとソフトウェアの導入 | 【知・思・主】インターネットを活用するために必要なハードウェアとソフトウェアの種類と機能を理解し、コンピュータをインターネットに接続する手続と方法について、企業活動の改善に対する要求に基づいて適切な環境を構築するために、組織の一員として、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | 4 |
| 12 | 3節 情報セキュリティの確保 | 【知・思・主】インターネットを活用する際の情報セキュリティの確保について自ら学び、実務に即して理解するとともに、企業における具体的な事例と関連付け、組織の一員として、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 | 5 |
| 1 | 5章 電子商取引とビジネス 1節 ネットワークを用いたビジネスと電子決済 | 【知・主】ネットワークを用いたビジネスの方法を理解することができたか。企業間取引、企業対消費者間の商取引における契約方法について理解することができたか。 【知・思】電子決済のしくみ、決済方法についての手順や内容について理解することができたか。 | 4 |
| | 2節 電子商取引サイトの開店準備 | 【知・思・主】電子商取引のしくみや開発に興味を持ち、電子商取引開設のための手順を理解することができたか。また、店舗運営を行うための基礎的な知識について理解することができたか。 | 4 |
| 2 | 3節 Webページ制作と集客方法 | 【知・思・主】実習に積極的に取り組み、電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解することができたか。また、環境に適したソフトウェアを用いて、電子商取引サイトを構築する技法を習得することができたか。 | 11 |
| | 4節 ビジネスの創造 | 【知・主】インターネットを活用したビジネスの動向についてIoTの実装によって電子商取引市場の進展の可能性について理解することができたか。 【思・主】新たなビジネスの創造について考え、インターネットを活用した新たなビジネスモデルについて理解することができたか。 | 3 |
| | | | 合計 96 |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 86 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|---|---|----|--------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 商業 | ビジネス法規 | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ビジネスに関する法について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。</p> <p>(2) 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | 商業740 ビジネス法規 (実教出版) | | | | | |
| | 準拠問題集 (実教出版) | | | | | |
| | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 実際のビジネスに関連する法規に基づき、ビジネスの様々な場面で役に立つ法規に関する知識と技術を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | ビジネスにおける法規に関する課題を発見するとともに、様々な事例を法的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ビジネスにおける法規に関する課題について学ぶ態度及び主体的に取り組む態度を養っている。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト・ワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 提出物・ワークシート |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|---|----------|
| 4 | 第1章 法の概要 1節 ビジネスにおける法の役割 2節 法の体系と解釈・適用 | 第1章【知】【思】【主】 ・ビジネスを適切に行うための法の役割について理解する。 ・ビジネスを円滑に行うため、現状について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組んでいる。 ・法が体系的に存在していること、法の分類及び法の解釈と適用の考え方について自ら学び、法規に基づき適切なビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 5 | 第2章 権利・義務と財産権 1節 権利・義務とその主体 2節 物と物権・債権 3節 知的財産権 | 第2章【知】【思】【主】 ・権利・義務の概要、権利行使の制限及び物権、債権など財産権の概要について、法規と関連付けて見いだしている。 ・知的財産の保護と活用に関する課題を発見し、知的財産を保護し活用する方策を考察して実施し評価・改善している。 | 9 |
| 6 | 第3章 財産権の変動 1節 契約 2節 物の売買 3節 物の貸借 4節 不法行為 5節 時効 | 第3章【知】【思】【主】 ・企業活動に係る契約全般について、また物の売買、賃貸についての企業における事例と関連付けて見いだしている。 ・企業活動に関する契約全般について、また物の売買、賃貸についての課題などを発見し、その課題への対応策を考察し、評価・改善している。 ・企業活動における契約について、具体的な事例を用いて、自ら学び、法規に基づき適切な企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・不法行為や時効の課題などを発見し、法的な根拠に基づいて、その課題への対応策を考察し、評価・改善している。 ・不法行為や時効など、具体的な事例を用いて、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | 9 |
| 8 | 第4章 企業活動と法規 1節 企業活動の主体 2節 株式会社の特徴と機関 3節 資金調達と金融取引 4節 組織再編と清算・再建 5節 競争秩序の確保 | 第4章【知】【思】【主】 ・企業活動の主体とその商行為の概要、株式会社の意義、株主の責任、株式の譲渡、資本と経営の分離及び株式会社の機関とその責任について、法規との関連付けて理解している。 ・企業活動に係る法規について、株式会社における事例と関連付けて見いだしている。 ・株式と社債の発行、金融機関からの借入及び金融商品取引法の概要について理解している。 ・資金の調達と運用と現状・課題、セーフティーネットについて学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組んでいる。 ・競争秩序の確保の現状・課題について学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組んでいる。 | 11 |
| 9 | 第5章 企業責任と法規 1節 法令遵守と説明責任 2節 労働者の保護 3節 消費者の保護 4節 情報の保護 | 第5章【知】【思】【主】 ・労働三権の概要及び労働三法、労働者派遣法など労働者の権利の保護に関する法規の概要について理解している。 ・消費者の保護に関する法規の概要について理解している。 ・法令遵守（コンプライアンス）と説明責任（アカウンタビリティ）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）の意義と重要性について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組んでいる。 | 9 |
| 11 | 第6章 紛争の解決と予防 1節 紛争の解決 2節 紛争の予防 | 第6章【知】【思】【主】 ・公証制度の概要、和解、調停及び仲裁の目的、手続、効力並びに民事訴訟制度の概要について、法規と関連付けて理解する。 ・国際的な紛争は国による法制度の違いが一因になっていることについて理解している。 | 9 |
| 12 | 第7章 税と法規 1節 税の種類と法人の納税義務 2節 法人税の申告と納付 3節 消費税の申告と納付 | 第7章【知】【思】【主】 ・国税、地方税、直接税、間接税など税の種類と分類、法人税、法人住民税など法人に対する税の概要について理解している。 ・企業における税の申告と納税に関する課題を発見し、それを踏まえ、法的な根拠に基づいて、税に関する責任を果たす方策を考察して実施し、評価・改善している。 | 8 |
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| | | | 合計 64 |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 87 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|---------|--|----|------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 年 | 商業 | 課題研究 | 必修 | 3 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | |
| 教材 | | | | | |
| 留意点 | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 地域産業の各分野について総合的に理解するとともに、関連する課題を発見し探求する技術を身に付けるようにする。 |
| 思考・判断・表現 | 地域産業における課題を発見し、地域の未来に携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 課題解決に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------|
| 知識・技能 | プレゼンテーション ワークシート |
| 思考・判断・表現 | プレゼンテーション ワークシート 学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | プレゼンテーション ワークシート 学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| 生徒の自主性、積極性、計画性、誠実性、責任感などが、実践的活動を通して身につくように留意する。 |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|--|----------|
| 4 | オリエンテーション 研究テーマ・班の設定 年間計画書、自己設定評価項目の作成 | 【知】課題解決のために自発的、創造的な学習に取り組み、専門的な知識と技術の深化と総合化が図られ、主体的な学習態度を身につけることができたか。 【思】自ら設定した課題に対し、自ら学び、自ら考え、より良く解決するために工夫して取り組むとともに、学習を通して得た成果を、適切にまとめ、報告・発表することができたか。 【主】主体的に学習する姿勢を持ち、グループ学習や、教え合いなどの工夫をして、知識・技能が定着している。 | 9 |
| 5 | 計画書提出・計画発表会 | | 9 |
| 6 | 調査・研究 | | 9 |
| 7 | | | 9 |
| 8 | | | 9 |
| 9 | 課題研究中間発表会 | | 9 |
| 10 | | | 12 |
| 11 | 科内発表会 | | 12 |
| 12 | 課題研究発表会準備 | | 9 |
| 1 | 課題研究発表会 「まとめ・修正する」 課題研究報告書作成 | | 9 |
| | | | 合計 96 |

| | | | | | |
|------|-----|----------|--|------------------|--|
| 通し番号 | 201 | 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス | |
|------|-----|----------|--|------------------|--|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|---------|--|---|----|------|------------|-----|
| 情報ビジネス科 | 3 | 年 | 国語 | 実用国語 | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>日常的な国語について学び、読む、書く、話す、聴く力を総合的に身につけ、基礎的な国語力の充実と自己表現力の育成を目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | パスポート国語必携 五訂版 (桐原書店) | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 |
| 思考・判断・表現 | 実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|----------------------|
| 知識・技能 | 小テスト・課題 |
| 思考・判断・表現 | 小テスト・課題・作文・発表・グループ活動 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 作文・発表・グループ活動・学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|------------------------|
| 漢字検定準2級以上を受験することが望ましい。 |
|------------------------|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|---|----|
| 4 | オリエンテーション （使用教材、成績の付き方） | | 1 |
| | ○正しく情報を伝えよう ・他己紹介 | 【知】 伝え方の方法や工夫を理解することができる。 【思】 相手の情報が他者に正しく伝わるようにインタビューの仕方や紹介を工夫することができる。 【主】 積極的にコミュニケーションをとり、相手をより理解しようとしている。 | 4 |
| 5 | ○敬語について学ぶ | 【知】 「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を理解している。 【思】 それぞれの敬語を文章に合わせて判断することができる。 【主】 敬語への理解を深め、日常でも使いこなそうとしている。 | 5 |
| | ○自己理解を深めよう ・スピーチ発表 「自分の長所と短所」 | 【知】 具体的にわかりやすいスピーチ内容はどんなものか理解している。 【思】 目線、声量、話すスピードなど「話す」ときに気をつけなければいけないことを意識して話している。 【主】 自身を振り返り、自己理解を深めようとしている。 | 7 |
| 6 | ○わかりやすい文章の作り方 ・文章の整え方① ・原稿用紙の使い方 ・作文作成① | 【知】 「話し言葉」と「書き言葉」の違いなど、わかりやすい文章の書き方を理解している。 【思】 自分の考えをまとめ、相手にわかりやすい文章を考えることができる。 【主】 伝えたい内容に合わせた表現を工夫しようとしている。 | 10 |
| 8 | 「学校生活で学んだこと」 | | 4 |
| 9 | ○SPI対策 | 【知】 「二語の関係」や「同意語・反意語、語句の意味」等を理解している。 【思】 SPIの特徴を理解し、問題を早く、正確に解こうとしている。 【主】 より多くの問題に触れ、問題に慣れようとしている。 | 4 |
| | ○読みやすい文章の作り方 ・文章の整え方② | 【知】 「主述の対応」や「接続詞」等を理解している。 【思】 決められたルールを使い、自分の文章に反映させようとしている。 【主】 積極的に文章の表現技法を使おうとしている。 | 4 |
| 10 | ○インタビューをしてみよう | 【知】 インタビューをするときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】 相手がより話したくなるような質問をしようとしている。 【主】 相手の話に興味を持ち、積極的にインタビューしようとしている。 | 5 |
| 11 | ○将来について考えよう ・作文② 「十年後の自分」 | 【知】 原稿用紙の使い方を理解している。 【思】 比喩表現など、文章表現を豊かにする工夫をしている。 【主】 将来の自分を想像し、根拠をもとにして考えようとしている。 | 5 |
| | ○模擬討論をしてみよう 「留萌地域移住プロジェクト」 | 【知】 自分の考えを、根拠をもとに話そうとしている。 【思】 自分なりのアイデアを持ち、他の人の意見を聞いて考えを膨らませようとしている。 【主】 積極的に討論し、アイデアを深めようとしている。 | 5 |
| 1 | ○「聞くこと」の力をつけよう ・落語、新聞、エッセイ等 | 【知】 「聞く」ときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】 情報を正確に聞き取り、内容を理解しようとしている。 【主】 リスニング教材に興味関心を持とうとしている。 | 5 |
| | ○「書くこと」の力をつけよう ・子供の権利条約 | 【知】 文章の種類によって、文章表現が変わることを理解している。 【思】 「読み手」によって文章表現を変え、適した文章を書こうとしている。 【主】 場面ごとの文章の書き方の違いに興味を持とうとしている。 | |
| 2 | | | |
| 3 | ○学校生活を振り返ろう ・作文作成③ 「留萌高校をもっとよい学校にするには」 | 【知】 説得力のある文章の書き方を理解している。 【思】 自分の考えを具体的に書き、わかりやすく説得力のある文章になるよう工夫している。 【主】 自分の周りの環境の「改善点」に気づき、想像を膨らませ、「改善方法」を考えようとしている。 | |
| | | | 合計 |
| | | | 64 |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 202 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修・選択 | 単位数 |
|-------|--|---|----|------|------------|-----|
| 全科 | 3 | 年 | 英語 | 実用英語 | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、ニュース記事や時事問題について記された題材を用いて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 | | | | | |
| 教材 | Watching World (浜島書店) | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 世界の時事問題や文化に関するニュース記事を正しく読み、事実や自分の意見を論理的に相手に伝えるために必要な英単語や、英文法知識の定着度と運用能力を評価する。 |
| 思考・判断・表現 | 世界の時事問題や文化の違いを知り、その社会的背景を理解した上で、多様な語句を用いて論理の展開や表現の方法を工夫しながら分かりやすく相手に伝える能力を評価する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 世界各地の文化や宗教、経済を学び、自分と異なる人々の価値観を尊重するとともに、自国の文化や自身の意見も尊重しながら公平な立場で英語でのコミュニケーションを図ろうとする態度を評価する。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|-------------------|
| 知識・技能 | 単元テスト、リスニングテスト |
| 思考・判断・表現 | ワークシート、パフォーマンステスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 授業態度、提出物 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| ・身近な話題について英語で話す活動、ペアやグループによるパフォーマンステスト（ロールプレイ、プレゼンテーションなど）を行います。・主に、単元テストとパフォーマンステスト |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---------------------------------------|--|----|
| 4 | ○オリエンテーション | | 1 |
| | 1 Food Culture in China | (知) 受動態を用いた文の用法を理解している。 (思) 好きな料理の特徴や食材について、英語で話すことができる。 (主) 好きな料理の特徴や食材について、英語で話そうとしている。 | 4 |
| | 単元テスト① | | 1 |
| | 2 Multiethnic Singapore | (知) 継続を表す過去完了を用いた文の用法を理解している。 (思) 習ってみたい外国語とその理由について英語で話すことができる。 (主) 習ってみたい外国語とその理由について英語で話そうとしている。 | 4 |
| 5 | 単元テスト② | | 1 |
| | 3 Unique Australian English | (知) to不定詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 知っている方言の意味について英語で話すことができる。 (主) 知っている方言の意味について英語で話そうとしている。 | 4 |
| | 単元テスト③ | | 1 |
| | 【パフォーマンステスト1】 | | 4 |
| | 4 The Ganges | (知) 名詞を修飾する過去分詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本の観光地やイベントについて、英語で話すことができる。 (主) 日本の観光地やイベントについて、英語で話そうとしている。 | 4 |
| 6 | 単元テスト④ | | 1 |
| | ◎ Travel English | | |
| | 5 Turkish Cuisine | (知) 接続詞ifを用いた文の用法を理解している。 (思) おすすめの日本食について英語で説明できる。 (主) おすすめの日本食について英語で説明しようとしている。 | 4 |
| | 単元テスト⑤ | | 1 |
| 7 | 6 Ramadan | (知) 比較級を用いた文の用法を理解している。 (思) 節分、七夕、七五三について英語で説明できる。 (主) 節分、七夕、七五三について英語で説明しようとしている。 | 4 |
| | 単元テスト⑥ | | 1 |
| | 7 Kenya, Leading Mobile Money Country | (知) 道具を表すwithを用いた文の用法を理解している。 (思) スマートフォンの便利な機能やアプリについて英語で説明できる。 (主) スマートフォンの便利な機能やアプリについて英語で説明しようとしている。 | 4 |
| | 単元テスト⑦ | | 1 |
| | 8 Onion Domes of Russian Churches | (知) 名詞を修飾する～ingを用いた文の用法を理解している。 (思) 日本の寺や神社での作法を英語で説明できる。 (主) 日本の寺や神社での作法を英語で説明しようとしている。 | 3 |
| 8 | 単元テスト⑧ | | 1 |
| | ◎ Talking about Japan | | 1 |
| | 9 British Boarding Schools | (知) see+人+～ingを用いた文の用法を理解している。 (思) 学校生活の思い出を英語で話せる。 (主) 学校生活の思い出を英語で話そうとしている。 | 3 |
| 9 | 単元テスト⑨ | | 1 |
| | 10 Land of Fire and Ice | (知) 関係代名詞thatを用いた文の用法を理解している。 (思) 日本のエネルギー利用について、英語で話し合える。 (主) 日本のエネルギー利用について、英語で話し合おうとしている。 | 4 |
| 10 | 単元テスト⑩ | | 1 |
| | 11 Japanese Immigrants to Brazil | (知) it is ～ (for) to ...を用いた文の用法を理解している。 (思) 海外で活躍する日本人について英語で話せる。 (主) 海外で活躍する日本人について英語で話そうとしている。 | 3 |
| 11 | 単元テスト⑪ | | 1 |
| | 【パフォーマンステスト2】 | | 1 |
| | 12 Day of the Dead | (知) that節を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本のお盆やお墓参りについて、英語で説明できる。 (主) 日本のお盆やお墓参りについて、英語で説明しようとしている。 | 4 |
| 12 | 単元テスト⑫ | | 1 |
| | 13 The U.S.A. and Its States | (知) 接続詞whenを用いた文の用法を理解している。 (思) 行きたい国とその理由を英語で話せる。 (主) 行きたい国とその理由を英語で話そうとしている。 | 3 |
| 1 | 単元テスト⑬ | | 1 |
| | | | 合計 |
| | | | 64 |

| | | | | | |
|----------|-----|------------------|--|--|--|
| 通し番号 | 203 | | | | |
| 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス | | | |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|-------|---|---|----|-----|-----------|-----|
| 全科 | 3 | 年 | 芸術 | 音楽Ⅱ | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>(1) 音楽Ⅰの学習経験を基盤として、質的に高めた音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせながら、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化とより深く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。</p> <p>(4) 音や音楽を知覚・感受し、思考・判断する過程を充実させ、音楽を評価しながらそのよさや美しさを深く味わって聴く力を高める。</p> <p>(5) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音や音楽のよさや美しさなどを自ら進んで感じ取ろうとする態度を養う。</p> <p>(6) 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | 教育出版 音楽Ⅱ Tutti+ | | | | | |
| | 自作のプリント・楽譜など | | | | | |
| | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定人数 | 20 |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | <p>【知】曲想と音楽の構造との関わり、曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びそれらの関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による楽器表現の固有性や多様性について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした楽器表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして演奏する技能を身に付け、楽器で表している。【知】様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p> |
| 思考・判断・表現 | 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したごとと感受したごととの関わりについて考え、個性豊かに楽器表現を創意工夫している |
| 主体的に学習に取り組む態度 | なじみのあるJ-POPの歌を、歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら二部合唱で歌うことに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 楽器や和楽器の音色や奏法の特徴を感じ取ることや、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽主体的に学習に取り組む態度文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に楽器や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト・ワークシート・学習観察 |
| 思考・判断・表現 | ワークシート・学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・定期考査・小テスト・学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| <p>※ギター、トーンチャイム、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、和楽器など幅広く取り組みます。</p> <p>※紙ファイルA4版、五線ノート8段～12段を用意してください。</p> |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|--|----------|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ○Hum With Me.. ○よりよい歌声のための練習曲 ◆「アヴェ・マリア」を聴き比べよう ○グレゴリオ聖歌「アヴェ・マリア」 ○カミュ・サン＝サーンス ○アントン・ブルックナー | <p>【知】曲想と音楽の構造との関わり及びその関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。（歌唱）</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。（歌唱）</p> | 6 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○Review 四季の歌 さくらさくら/我は海の子/ ◆音のスケッチ① 音楽の要素を探ろう ◆作曲家年表 ◆楽典（強弱・速度・発想記号） | <p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。（鑑賞）</p> <p>【知】音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受しとの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。</p> | 8 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○Core 'ngrato ○Placer d'amor ◆イタリア語に挑戦！ ◆Review of Basics③ 長音階と短音階 ◆史跡でたどる西洋音楽史 | <p>【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、その関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付けて表している。</p> | 8 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> 【共通教材】 ○Deck the hall with boughs of holly ○ほたるこい ○Amazing grace | <p>【知】様々な表現形態による歌唱（器楽）表現の固有性や多様性について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱（器楽）表現をするために必要な他者との調和を意識して歌う（演奏する）技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う（演奏する）技能を身に付け、歌唱（器楽）で表している。</p> | 6 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○You are my sunshine □Action I | <p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。</p> | 4 |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ◆協奏曲の魅力を探ろう ○ピアノ協奏曲第1番 木短調 op.11 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆史跡でたどる西洋音楽史 ◆鑑賞ノート（自作） | <p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。</p> <p>音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。</p> | 8 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ○Auf Flügeln des Gesanges ○Ich liebe dich ◆ドイツ語に挑戦！ ◆Review of Basics④ さまざまな短音階 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆史跡でたどる西洋音楽史 | <p>【知】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらの関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> | 8 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ○あなたはどこに ○たからもの ○大きな古時計 ○Moon river ◆名曲プレゼンテーションⅡ―演奏家と楽器が生み出す音楽の魅力―（自作） ◆演奏家の表現の仕方を感じ取ろう ○無伴奏チェロ組曲第1番 ○ツイゴイネルワイゼン ○ハンガリー田園幻想曲 ○クラリネット・ソナタ第2番 ○アダージョとアレグロ ○ハーブ・ソナタ ◆口絵①② 楽器の音色から広がる音楽の世界 | <p>【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p> | 8 |
| 12 | <ul style="list-style-type: none"> ◆演奏家の表現の仕方を感じ取ろう ○無伴奏チェロ組曲第1番 ○ツイゴイネルワイゼン ○ハンガリー田園幻想曲 ○クラリネット・ソナタ第2番 ○アダージョとアレグロ ○ハーブ・ソナタ ◆口絵①② 楽器の音色から広がる音楽の世界 | <p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。</p> <p>音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。</p> | 6 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ※学習状況に基づいて下記【A】【B】【C】から一つを択して学習する。 【A】 ○トウーランドット ○Nessun dorma 【B】 ○キャッツ ○Over the rainbow 【C】 ○ニュー・シネマ・パラダイス □タイトル曲 □二人だけの映写会 □愛のテーマ | <p>【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びそれらの関わりによって生みだされる表現上の効果を理解している。（歌唱）</p> <p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わりについて理解を深めている。（鑑賞）</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表している。（歌唱）</p> <p>【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。（器楽）</p> | 2 |
| | | | 合計 64 |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 204 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|-------|--|---|----|-----|-----------|-----|
| 全科 | 3 | 年 | 芸術 | 美術Ⅱ | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようになる。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | <p>高校生の美術2（日本文教出版）</p> | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定人数 | 15 |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。 |
| 思考・判断・表現 | <p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p> |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p> |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|----------------------|
| 知識・技能 | 制作物、小テスト、ワークシート、学習観察 |
| 思考・判断・表現 | 制作物、小テスト、ワークシート、学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 制作物、小テスト、ワークシート、学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| <p>・教材費として6,000円程度を徴収する予定である。 ・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。</p> |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|---|------------------|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（1年の流れ、成績について教室の使用ルール） ・マチエール・抽象画 | <p>【知】 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、抽象絵画を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 主題に合ったマチエールや表現方法を創意工夫し、材料や用具の特性を生かして個性豊かで創造的にあらわしている。</p> | 1 |
| 5 | | <p>【発】 自己について深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、形や色、構図などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的に抽象絵画の造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考えながら、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p> | 30 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術史 | <p>【知】 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、さまざまな作品の歴史や表現、成り立ちなどを、全体のイメージや様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【鑑】 さまざまな作品の造形的なよさや美しさを比較しながら感じ取るとともに、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きや、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから、生活や社会の中の美術や美術文化について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的にさまざまな作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから、生活や社会の中の美術や美術文化について考えながら、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p> | 4 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・映像メディア表現 | <p>【知】 形や色、光などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、写真を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じてカメラ等の用具の特性を生かして、テーマの意図を効果的にあらわしている。</p> <p>【発】 テーマであらわすことの意味を考え、被写体を見つめて感じ取ったことや考えたことをもとに映像メディアの特性を生かして主題を生成し、視点や構図、光などの視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 写真の美しさを感じ取り、作者の意図と表現の工夫について考え、おこる見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的に撮影のテーマを探し、被写体を見つめ感じ取ったことや考えたことなどをもとに、写真に表現する創造活動に取り組もうとしている。</p> | 10 |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン | <p>【知】 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、デザインを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】 意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわしている。</p> <p>【発】 ものの形や色の特徴などから主題を生成し、形と色の組み合わせや構成などの効果について考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】 デザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】 主体的にデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、形や色、構成の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p> | 16 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年間まとめ、掃除 | | 3 |
| | | | <p>合計 64</p> |

| | |
|----------|------------------|
| 通し番号 | 205 |
| 令和7年度入学生 | 北海道留萌高等学校 授業シラバス |

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|-------|---|---|----|---------|-----------|-------|
| 全科 | 3 | 年 | 家庭 | フードデザイン | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>【知識・技能】 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考・判断・表現】 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【主体的に取り組む態度】 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | <p>フードデザイン 家庭702（教育図書）</p> | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定人数 | 20人まで |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技術を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 食生活に関する諸問題に関心をもち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-------------|
| 知識・技能 | 実技・単元テスト |
| 思考・判断・表現 | ワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 学習観察・ワークシート |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| <p>材料費4,000円徴収予定。調理実習を1時間で実施する。その場で作って食べて片付けまで行う。持ち帰りは認めない。作るものは教員で課題を提示する。食べ物の好き嫌いが多い者は履修をおすすめしない。</p> |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---|---|----------|
| 4 | 第1章 健康と食生活 ① 食事の意義と役割 ② 食を取り巻く現状 | 【知】 毎日の食事にどのような役割があるか理解している。 日本の食生活の現状と、青年期の食生活の課題を理解している。 【思】 食事の役割をふまえて、自らの食生活を正しく評価している。 【関】 よくない食生活と、それによって引き起こされる生活習慣病を防ぐため食生活の向上を実践しようとしている。 | 3 |
| 5 | 第2章 栄養素と食品 ① 栄養素と消化・吸収 ② 各栄養素のはたらき ③ 食品とその特徴 ④ 何をどれだけ食べる？ | 【知】 からだの構成成分と栄養素について基礎的な知識を身に付けている。 食品の消化と吸収のしくみについて理解している。 栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 【思】 食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて考察することができる 【関】 身の回りの加工食品と、加工の目的から自身の食生活の課題解決に主体的に取り組んでいる | 16 |
| | 第3章 食品の選択と取り扱い ① 食品選択のコツ ② 食品の衛生と安全 ③ 食の安全を考えて選ぼう | 【知】 生鮮食品の選び方のコツを身に付けている。 加工食品の表示を読み解く技術を身に付けている。 食物アレルギーと表示について理解している。 【思】 食中毒の特徴から、リスクを減らすため安全で健康や環境に配慮した調理や食材の管理を考察することができる。 【関】 食品の安全を守るためのさまざまな制度から自身の食生活との関連性を意識することができる | 5 |
| 6 | 第4章 調理してみよう | | 27 |
| 7 | ① なぜ調理するのか | 【知】 食べ物の味が影響を受けている要素を理解している。 | |
| 8 | ② 調理操作と調理器具 | 非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。 衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。 | |
| 9 | | 【思】 調理の目的から安全性、栄養性、おいしさなどの面を考察することができる。 | |
| 10 | 実践編 献立と調理 | 【関】 栄養、嗜好、費用、食品、調理法、季節感を意識した献立を構成することができる。 | |
| 11 | 第5章 各国料理とコーディネート ① 料理の様式 ② テーブルコーディネート | 【知】 各様式別料理の特徴や献立構成について理解している。 【思】 各様式別料理の作法に関するマナーやサービスを考察し、表現することができる。 【関】 目的に応じたテーブルコーディネートの技術を実践しようとしている。 | 8 |
| 12 | 第6章 食育と食育推進活動 ① 食育推進の取り組み ② 食文化を見つめる ③ 食と環境について考えよう | 【知】 食育基本法、食育推進計画等の目的や概要を理解している。 日本の食料自給率の現状と課題について理解している。 【思】 家庭、学校、地域等の食育活動に関連する情報を収集・整理している。 【関】 食品ロスの原因と、食品ロス削減に関する取り組みについて自身の食生活との関連性を意識することができる。 | 5 |
| | | | 合計 64 |

| | |
|------|-----|
| 通し番号 | 206 |
|------|-----|

令和7年度入学生

北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修・選択 | 単位数 |
|-------|---|---|----|--------|------------|-----|
| 全科 | 3 | 年 | 保体 | 生涯スポーツ | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | 生涯にわたって自分自身のライフサイクルに適したスポーツを楽しみながら継続的に実施できる能力を高め、主体的・積極的に各種スポーツに取り組む態度を育てる。 | | | | | |
| 教材 | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解すると共に、楽しみながら学習に取り組む力を養う |
| 思考・判断・表現 | 各領域・種目特有の特性や魅力に応じた課題を発見し、合理的・計画的な課題解決の過程の中で思考し判断する力を養う |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 仲間と協力して実施計画を立案し、効果的に学習を進めることができる力を養う |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|------------------------|
| 知識・技能 | 実技テスト・ノート、授業活動 |
| 思考・判断・表現 | 実技テスト・ノート、授業活動、計画・課題解決 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 授業活動、計画・課題解決 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|---|
| <p>・単にスポーツに親しむだけでなく、仲間と協力して練習方法や戦術・戦略を考察したり、新たなルールや競技を考案したりするなど、主体的に授業を構築することを目標とする。 ・仲間と課題を見つけ、科学的な理解のもとに運動する習慣を身につける。 ・各種目でスキルテストを実施する。</p> |
|---|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|-------|---------------|--|----------|
| 4月～1月 | 年間を通して実施種目を選択 | <p>【知】運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている</p> <p>【思】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている</p> <p>【学】運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか</p> | 64 |
| | | | 合計 64 |

| | | | | | |
|------|-----|----------|--|------------------|--|
| 通し番号 | 207 | 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス | |
|------|-----|----------|--|------------------|--|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修修・選択 | 単位数 |
|-------|--|---|----|----------|-----------|-----|
| 全科 | 3 | 年 | 商業 | ネットワーク管理 | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報資産を共有し保護する環境の提供に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報資産を共有し保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 情報資産を共有し保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定人数 | 30名 |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 情報資産の共有、ネットワークの設計・構築に必要なハードウェア、ソフトウェア、情報セキュリティ管理について、その特性や設定に関連する知識と技術を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 情報資産の共有、ネットワークの設計・構築に必要なハードウェア、ソフトウェア、情報セキュリティ管理について、課題を見出し、企業活動と関連付けて考え判断し表現できる。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 情報資産の共有、ネットワークの設計・構築に必要なハードウェア、ソフトウェア、情報セキュリティ管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組んでいる。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テストワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ワークシート 学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| 「ネットワーク活用」は、2年で学んだ「ソフトウェア活用」の発展的な科目です。 |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--------------------------|--|----|
| 4 | ガイダンス | 情報資産を共有することの重要性について考え、説明することができたか。【知】 | 2 |
| | 1章 企業活動と情報通信ネットワーク | 企業活動と情報通信ネットワークの関わりにおいて、情報資産を共有することの重要性について考え、課題を見いだすことができたか。【思・主】 | 2 |
| | 1節 情報資産の共有の重要性 | | |
| | 2節 情報通信ネットワークの形態と通信 | さまざまな情報共有システムに関心を持ち、情報資産を共有し、保護する適切な環境を提供する活動の意義や役割を考えて学習活動ができたか。【主】 | 2 |
| | 2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 | 身の回りのネットワークについて検討し、必要なネットワーク構成案を考える活動ができたか。【知・思】 | 7 |
| | 1節 情報通信ネットワークの設計方法 | | 6 |
| 5 | 2節 情報通信ネットワークのしくみと通信方法 | ネットワークを設計する基本的な方法について理解することができたか。【知】 | 7 |
| | 3節 ネットワーク機器 | | |
| 6 | 4節 情報通信ネットワークの構築方法 | ネットワークの構築について関心を持ち、ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアについての学習や実習に積極的に取り組もうとしているか。【主】 | 8 |
| | | D H C Pサービスのインストールや設定手順を理解することができたか。【知】 | |
| | | 管理ツールやセキュリティポリシーに基づいたネットワーク運用管理やユーザー管理を理解することができたか。【知】 | |
| 7 | 5節 情報通信ネットワークの運用と障害対策 | サーバの稼働状況などを監視するパフォーマンス監視について理解することができたか。【知】 | 7 |
| | | システム監査の目的や監査の考え方が理解することができたか。【知】 | |
| | 6節 システム監査 | システム監査の具体的な実施手順や代表的な監査技法について理解することができたか。【知・思】 | 6 |
| 8 | | 情報資産に対するさまざまな脅威やリスクについて、さまざまな観点から考察し理解を深めることができたか。【知・思】 | |
| | 3章 情報セキュリティ | 情報セキュリティの重要性について、企業存続という観点を踏まえながら理解できたか。【知】 | 3 |
| | 1節 情報セキュリティ管理の目的と重要性 | 情報セキュリティに関する各法規や組織的対応について理解できたか。【知】 | |
| 9 | 2節 人的対策 | 人的対策の具体的方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。【知・思】 | 5 |
| | | パスワードの適切な管理やアクセス権の重要性について、科学的な根拠に基づいて、思考しようとしたか。【知・思】 | |
| 10 | | 人的対策の具体的方法について自ら学び、情報資産の保護に主体的かつ協働的に取り組もうとしたか。【思・主】 | |
| 11 | 3節 技術的対策 | 技術的対策の具体的方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。【知・思】 | 5 |
| | | 不正アクセス・クラッキング対策の重要性について、科学的な根拠に基づいて、思考しようとしたか。【知・思】 | |
| 12 | | 技術的対策の具体的方法について自ら学び、情報資産の保護に主体的かつ協働的に取り組もうとしたか。【思・主】 | |
| 1 | 4節 物理的対策 | 物理的対策の具体的方法について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。【知・思】 | 4 |
| | | 自然災害への対策と防犯対策の重要性について、科学的な根拠に基づいて、思考しようとしたか。【知・思】 | |
| | | 物理的対策の具体的方法について自ら学び、情報資産の保護に主体的かつ協働的に取り組もうとしたか。【主】 | |
| | | | 合計 |
| | | | 64 |

| | |
|------|-----|
| 通し番号 | 208 |
|------|-----|

令和7年度入学生

北海道留萌高等学校 授業シラバス

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必修・選択 | 単位数 |
|-------|--|---|----|---------|------------|-----|
| 全科 | 3 | 年 | 商業 | グローバル経済 | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、グローバル化する経済社会におけるビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。</p> <p>(2) 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う</p> | | | | | |
| 教材 | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 日本経済の現状に関連する経済活動について、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済のグローバル化に関する知識と技術を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | ビジネスにおける国際経済や国内経済に関する課題を発見するとともに、様々な事例をグローバルな視野に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ビジネスにおける国際経済や国内経済に関する課題について学ぶ態度及び主体的に取り組む態度を養っている。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テストワークシート |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テストワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ワークシート 学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|-------------|
| ワークシート 学習観察 |
|-------------|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|------------------------|---|----------|
| 4 | 第1章 グローバル化が進化する社会 | 第1章【知】【思】【主】 | 6 |
| | 1. 国境を超えて広がる世界 | ・グローバル化する社会の現状やその問題点の概要について理解している。 | |
| | 2. グローバル化する社会 | ・グローバル化の進展によって、社会がどのように変化しているのか、経済面での発展との関連について考えている。 | |
| 5 | 3. グローバル化と地域経済統合の動き | ・地域経済統合の意義について理解し、主な地域経済統合について把握している。 | 6 |
| | 4. グローバル化と経済発展 | ・グローバル・バリューチェーンについて理解するとともに、経済発展との関連について考えている。 | |
| | 5. グローバル化の諸問題 | ・グローバル化による問題点について、解決策の検討に取り組んでいる。 | |
| 6 | 中間考査 | ・実習に積極的に取り組んでいる。 | 2 |
| | 第2章経営のグローバル化 | 第2章【知】【思】【主】 | |
| | 1. 多国籍企業とグローバル経営 | ・企業がグローバル化する理由について考察することができている。 | |
| | 2. 企業の海外進出とグローバル経営の難しさ | ・企業が海外進出する際の判断基準や方法について、それぞれの内容を理解している。 | |
| 7 | 3. グローバル経営の現状 | ・海外拠点の役割の変化や現地化の内容について理解している。 | 6 |
| | 4. グローバル経営の課題 | ・グローバル経営を行う上での課題について考察し、対応方法について考案することができている。 | |
| 8 | 5. グローバル化に伴う企業の社会的責任 | ・グローバル化に伴う問題に対する企業の社会的責任について理解している。 | 6 |
| 9 | 第3章 経済のグローバル化 | 第3章【知】【思】【主】 | 10 |
| | 1. 人材のグローバル化 | ・人材のグローバル化について、現状を理解し、課題について考察することができている。 | |
| | 2. 財とサービスのグローバル化 | ・国際分業の特徴について理解し、それを実現させるための各種協定等について、各国における状況を踏まえて理解している。 | |
| 10 | 中間考査 | 第4章【知】【思】【主】 | 8 |
| | 3. 金融のグローバル化 | ・市場に関する理論的な内容について理解することができている。 | |
| 11 | 4. 情報のグローバル化 | ・現実社会における市場の課題について考察し、対応のための方法について考えることができる。 | 8 |
| 12 | 第4章 | ・市場理論を通して、経済学について関心を持つようとしている。 | 8 |
| | 市場と経済 | | |
| | 1. 需要と供給による市場の理論 | | |
| | 2. 経済成長 | | |
| | 3. 景気循環とインフレーション | | |
| | 4. 経済政策 | | |
| 1 | 学年末考査 | | 4 |
| | | | 合計 64 |

| | | | | | |
|------|-----|----------|--|------------------|--|
| 通し番号 | 301 | 令和7年度入学生 | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス | |
|------|-----|----------|--|------------------|--|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|----------------|---|---|----|------|------------|-----|
| 電気・建築科/情報ビジネス科 | 3 | 年 | 理科 | 化学基礎 | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | 新編 化学基礎 (数研出版) | | | | | |
| | サンダイヤル 化学基礎の基本練習 (啓林館) | | | | | |
| | | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観点 | 趣旨 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解できた。科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けた。 |
| 思考・判断・表現 | 物質とその変化について、身につけた知識を用いて用いて思考できた。観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身に付けた。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けた。 |

(2) 評価方法

| 観点 | 評価方法 |
|---------------|-----------------------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察 |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査・小テスト、ワークシート、観察・実験、学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| 電気・建築科、情報ビジネス科の生徒のみが選択できる科目です。定期考査は年3回実施する |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|---------------------------|--|----|
| 4 | 第1節 物質の構成と化学結合 1 物質の構成 | 【知】・混合物を分離する操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華法、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげることができる。 【主】・身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ 【思】・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・単体と化合物の違いについて説明することができる。 | 7 |
| 5 | 2 物質の構成粒子 | 【知】・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。 | 9 |
| 6 | [前期中間考査] | 【主】・各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。 【思】・原子について、どのような粒子から構成されているかを説明することができる。 | 1 |
| 7 | 3 粒子の結合 | | 10 |
| 8 | [後期期末考査] | 【知】・それぞれの結合の種類について説明できる。 ・さまざまなイオン式や分子式、電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。 【思】・原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想することができる。 【主】・身のまわりの物質の結合の成り立ちについて興味を持つ。 | 1 |
| 9 | | | |
| 10 | 第2節 物質の変化 | | |
| 11 | 1 物質質量と化学反応式 | 【知】・モルの概念を、質量や粒子数、体積と結びつけることができる。 【思】・原子量をもとに、化学反応の量的な関係を導くことができる。 【主】・化学反応が、化学反応式で表現できることがわかる。 | 9 |
| | [後期中間考査] | | 1 |
| 12 | 2 酸と塩基の反応 | 【知】・酸や塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解し、説明できる。 【思】・酸・塩基の性質をH ⁺ とOH ⁻ で考える方法と、H ⁺ の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。 【主】・酸とは何か、塩基とは何かに関心をもつ。 | 14 |
| 1 | | | |
| 2 | [後期期末考査] | | 1 |
| 3 | 3 酸化還元反応 | 【知】・電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。 【思】・酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。 【主】・酸化と還元が同時に起こることに気づく。 | 11 |
| | | | |
| | | | 合計 |
| | | | 64 |

| | | | | | | | | | |
|------|-----|-----------------|--|--|--|-------------------------|--|--|--|
| 通し番号 | 401 | 令和7年度入学生 | | | | 北海道留萌高等学校 授業シラバス | | | |
|------|-----|-----------------|--|--|--|-------------------------|--|--|--|

1 科目の概要

| 学科 | 学年・年次 | | 教科 | 科目 | 必修・必履修・選択 | 単位数 |
|-------------|---|---|----|--------|------------|-----|
| 情報ビジネス科/普通科 | 3 | 年 | 工業 | 工業環境技術 | 選択 | 2 |
| 科目の目標 | <p>①知識及び技能 環境技術について工業の各分野における産業と環境との関係や環境の保全技術を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 環境技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 環境技術を用いて持続可能な社会を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> | | | | | |
| 教材 | 工業環境技術（実教出版） | | | | | |
| 留意点 | | | | | 開講予定 人数 | |

2 評価

(1) 評価の観点

| 観 点 | 趣 旨 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 環境問題の種類やその特徴を理解し、環境保全に求められる基礎的な環境技術や方策に関する知識を身に付けている。また、情報の検索と選択や資料の活用のほか、調査・実験についても適切に行うことができる。 |
| 思考・判断・表現 | 身近な環境問題から地球環境問題までを系統的にとらえ、人類が環境に与える影響や人間と環境技術が果たす役割について思考・判断することができる。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 環境問題や環境保全技術に関心をもち、環境にかかわる諸課題の探求と問題解決のため主体的に学習することができる。また、既存の知識と新たに習得した知識を融合して探求的な学習活動を行うことができる。 |

(2) 評価方法

| 観 点 | 評価方法 |
|---------------|----------------|
| 知識・技能 | 定期考査・小テスト、レポート |
| 思考・判断・表現 | 定期考査・小テスト、レポート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | レポート、学習観察 |

3 履修上および学習上の注意

| |
|--|
| |
|--|

4 年間指導計画（学習内容（単元名）と評価の観点）

| 月 | 学習内容（単元名） | 評価の観点（観点別） | 時数 |
|----|--|--|----------|
| 4 | 「工業環境技術」を学ぶにあたって | | 3 |
| 5 | 第1章 地球と人類 1節 地球の成り立ち 2節 地球上の資源 3節 世界の資源と人間 | 【知】 地球構造と循環や資源特徴と問題点、人口と資源消費の関連を把握することができる。 【思】 炭素や水の循環の影響を説明し、資源の社会的影響と保護の必要性を説明することができる。また、経済活動が資源消費に与える影響や日本の資源利用の問題点を提起することができる。 【主】 地球構造や物質循環を学習し、資源の社会的価値や問題の調査を通して理解し、他の科目の知識を活用して探求しようとしている。 | 8 |
| 6 | 第2章 社会と環境 1節 社会と環境の歴史" 2節 日本の環境政策 | 【知】 日本の公害問題と国際的な環境対策を理解している。環境法や影響評価、保全手法、関係者の役割についての知識を身につけている。 【思】 公害や環境問題の背景と拡大経緯を検証し、国際的取り組みの重要性を説明することができる。また、日本の環境政策や役割について説明することができる。 【主】 地球環境の歴史を整理しながら学習に取り組もうとしている。法律関係やアセスメント手順をフローチャートで学習しようとしている。 | 8 |
| 7 | 第3章 地球温暖化とエネルギー 1節 地球温暖化とその影響" 2節 エネルギーの利用技術と地球温暖化対策 | 【知】 地球温暖化の原因と対策を理解し、将来の影響をグラフで読み取ることができる。エネルギー供給と消費関係や効率的な利用技術を図に表現することができる。 【思】 地球温暖化のシナリオと予測の関係を考察し、社会的・生物学的影響と対策を検討できる。各国の発電構成からエネルギー事情を推察し、利用技術の長所と短所を判断できる。 【主】 地球温暖化の危機を身近に感じ、情報を取捨選択し学習を進めている。発電方法やエネルギー技術に興味を持ち、関連科目の知識と結び付けて理解を深めようとしている。 | 8 |
| 8 | 第4章 廃棄物とリサイクル 1節 廃棄物の現状" | 【知】 廃棄物の分類や排出量、不法投棄の実態を把握し、分別から処理・処分までの流れや3R、ライフサイクルに関する知識を身につけている。 | 8 |
| 9 | 2節 廃棄物の処理技術と管理 | 【思】 経済活動に伴うごみ問題を考察し、処理の必要性や問題点を説明することができる。処理技術と環境対策を理解し、抑制と3Rから適切な処分方法を判断することができる。 【主】 ごみ問題に関心を持ち、解決に向けて学習することができる。処理方法や制度の理解に努め、効果的な学習方法を模索することができる。 | |
| 10 | 第5章 地域環境の保全 1節 大気汚染の現状と対策" | 【知】 大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について理解している。 | 10 |
| 11 | 2節 水質汚染の現状と対策 3節 土壌・地下水汚染の現状と対策 4節 騒音・振動・臭気の現状と対策 | 【思】 大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について考察・判断することができる。 【主】 大気・水・土壌汚染の種類や基準、排出ガス処理技術、水質汚染原因、土壌汚染対策、公害対策、騒音計算について、関連科目の知識と結び付けて理解を深めようとしている。 | |
| 12 | 第6章 産業と環境 1節 産業界の環境管理の取り組み" 2節 環境リスクと安全管理の取り組み 3節 省エネルギーの取り組み 4節 再生可能エネルギーの取り組み 5節 廃棄物処理とリサイクルの取り組み | 【知】 環境マネジメントやライフサイクル、安全データ読取、省エネ・再生エネ理解、リサイクル法・フロン問題について理解している。 【思】 企業の環境対応とリスク管理、省エネと再生可能エネルギー、廃棄物削減とフロン排出対策を検討することができる。 【主】 企業の環境対応を調査し、リスク削減方法を模索。エネルギー節約と再生可能エネルギーのメリットを学び、環境保全に関連付けながら学ぼうとしている。 | 11 |
| 1 | 第7章 都市・生活と環境 1節 都市システムと環境 2節 住環境と健康 3節 自然環境と防災・減災 4節 環境保全に向けたさまざまな取り組み | 【知】 環境問題の理解と対策について学び、ヒートアイランドや水の利用、健康対策、防災意識を高め、まちづくりやエネルギー削減の取り組みについて理解している。 【思】 エネルギー消費とヒートアイランド、水処理、省エネルギーと環境汚染対について説明することができる。健康影響、省エネ住宅、防災、環境保全を研究・発表することができる。 【主】 エネルギーと水のシステム理解し、地球温暖化や住環境に関する知識を再活用しようとしている。防災意識高め、環境保全について学習意欲を高めようとしている。 | 8 |
| | | | 合計 64 |